

東京薬科大学 研究データポリシー

(目的)

東京薬科大学（以下「本学」とする。）は、「ヒューマニズムの精神に基づいて、視野の広い、心豊かな人材を育成し、薬学並びに生命科学の領域にて、人類の福祉と世界の平和に貢献する」ことを理念として掲げている。

この理念のもと、本研究データポリシーは、本学の研究過程で得られた研究データの管理および公開に関する基本指針を示すことで、研究の質と透明性を向上させるとともに、研究データの利活用を促進し、さらなる研究の発展と社会への還元に資することを目的とする。

(研究データの定義)

本ポリシーにおける「研究データ」とは、研究者が本学における研究活動において収集または生成したデータを指す。データ形式やデータの加工段階は問わない。

(研究データの管理および公開)

本学は、本学の研究過程で収集・生成した研究データを適切に管理し、可能な限り公開し利活用に供する。ただし、研究分野の特性を踏まえ、法令および本学の諸規程ならびに他者の権利を害さない範囲内において、適切にこれを実施する。

(研究者の責務)

本学の研究者は、原則として、自らが収集・生成した研究データを適切に管理する。また、研究者は、研究データ公開の意義を理解し、研究データを公開するよう努め、公開の可否、および、その時期、範囲を決定する。

(大学の責務)

大学は、研究の発展と社会への還元のため、研究データの管理、および、公開のための支援環境を整備する。

(ポリシーの見直し)

本学は、社会状況や学術環境の変化に応じて、適宜、本ポリシーの見直しを実施する。

附則

本ポリシーは、2024年3月26日から適用する。

附則

本ポリシーは、2025年12月23日から適用する。